

- 川鉄病院付属高等看護学院(非) 小保方稔子 女子栄養大学(非) 三善勝代
お茶の水女子大学政 鶴沢由美子 共栄学園短大生活学科 山田祐子

【目的・方法】第1報に同じ。ここでは仕事の現状に焦点をあてる。すなわち、事業の形態、採算面、PR方法、仕事時間・日数、事業目標、楽しみ、座右の銘、苦労等について述べる。

【結果】①事業の形態は多岐にわたり、並列的には必ずしも比べられないが、会社組織、あるいはその一部という形をとっているものは55件中、16件であった。②採算面については自活可能か否かを指標としたが、23件(42%)が自活出来る収入を得ていた。借り入れは、開始時の9件が、23件に増えていた。そのうちの15件は、借金を「励み」「気にならない」としていた。また、借り入れのあるもののうち自活出来ると回答したのは14件であった。③PR方法として多かったのは開始時と同様、「チラシ」と「口コミ」であったが、「特に何もしていない」という回答が「チラシ」と並んで14件と最も多くなっていた。④仕事時間・日数は決して少ない方ではないが、自己の裁量で調節出来るためか、楽しみながらフレキシブルに働いている人も多かった。⑤事業目標としては「社会への還元」や「出会い」といった、社会や人とのかわりに関する回答が40件にのぼった。楽しみについては、「人との出会い」とした回答が26件と最も多く、座右の銘についても、誠実や真心という「他者への心のもち方」に関する回答が最も多かった(17件)。⑥このように、あくまでも金儲け主義ではなかったが、実際に苦労する点としては「人と金」であることが指摘された。